

1. 地域情報

圏域	(主な町名) 黒松 1 丁目～3 丁目、旭丘堤二丁目（1 番～4 番除く）旭丘いずみ会				
	(連合町内会)		黒松連合町内会		
	(学区)		黒松小学校、八乙女中学校		
	(地域包括支援センター)		八乙女地域包括支援センター		
人口※1	5,207 人	高齢者数 ※1	1,447 人	高齢化率※1	27.79%
世帯数※1	3,003 世帯	未就学児数※1	137 人		
地区の概況	黒松地区は泉区南東部に位置し、昭和 30 年前半に泉区域最初の大規模団地として造成された黒松団地により構成されている地区。仙台駅へのアクセスも良いため通勤通学に便利で、近隣には仙台市青年文化センター・仙台市科学館・台原森林公園などがあり、恵まれたアクセス環境でありながら、豊かな自然に囲まれた静かな住宅地となっている。				
地域資源 (関係団体、施設、連絡会等)	単位町内会	黒松町内会、黒松北斗町内会、黒松いずみ会、黒松団地自治会 黒松中央町内会、黒松公社自治会、旭丘いずみ町内会			
	地域活動団体 (町内会除く)	泉南地区民生委員児童委員協議会（黒松ブロック）、黒松寿会 黒松婦人の会、黒松校区子ども会育成会、黒松学区民体育会振興会 真美沢公園を美しくする会			
	N P O				
	ボランティア団体				
	高齢者関係施設等	八乙女地域包括支援センター			
	障がい者関係施設等				
	子供関係施設等	黒松児童館、黒松保育所			
	教育機関	黒松小学校、八乙女中学校			
	市民利用施設	黒松市民センター、黒松集会所			
	その他				

※1 令和 7 年 4 月 1 日現在の「仙台市町名別年齢（各歳）別住民基本台帳人口」の町名ごとに集計されているデータを、その町名を主に活動圏域とする地区社協ごとに累計したものです。詳細な地区社協活動圏域（街区符号・住居番号）による累計ではありません。

2. 地区社協の体制

結成年月日	平成 12 年 9 月 3 日			
社協会員数	普通会員 1,318 名 特別賛助会員 0 名 ※令和 6 年度実績			
会 長	氏 名	阪野 雅之	就任年月日	平成 17 年 5 月 24 日
	兼務の状況	民生委員・黒松いずみ会会長		
組織体制	(役員体制) 会長 1 名 副会長 2 名 庶務・会計 3 名 理事 9 名 監事 2 名 (活 動 者) 1 名 (活動者呼称) 福祉活動推進員			
主な	有→	(名 称)		
活動拠点	無→	(主な活動場所) 老人憩いの家 集会所 市民センター		

3. 小地域福祉ネットワーク活動

推進体制の概要		町内会ごとに実施		
会議・研修		・役員会 ・黒松地域福祉交流会、元気アップ生活（介護予防体操、ボッチャ）		
活動の概要 （令和6年度実績）	安否確認活動		生活支援活動	サロン活動
	実施対象世帯（実数）		実施対象世帯（実数）※2	実施回数
	2世帯		1世帯	3回
	（内訳）		（内訳）	延べ参加数
	一人暮らし高齢者世帯 1世帯		一人暮らし高齢者世帯 1世帯	46人
	日中独居高齢者世帯 0世帯		日中独居高齢者世帯 0世帯	（対象）
	高齢夫婦世帯 0世帯		高齢夫婦世帯 0世帯	☒ 高齢者
	その他の高齢者がいる世帯 0世帯		その他の高齢者がいる世帯 0世帯	☐ 障害者
	障がい者のいる世帯 0世帯		障がい者のいる世帯 0世帯	☐ 子育て中の親（子）
	子供のいる世帯 0世帯		子供のいる世帯 0世帯	☐ 子ども
	その他の世帯 1世帯		その他の世帯 0世帯	☐ その他
	実施回数（延べ） 5回		実施回数（延べ） 2回	※定期的に開催しているサロン等は、別紙「主なサロンの開催状況一覧」参照
	主な支援内容 〔訪問、その他〕		主な支援内容 〔 〕	

※2 生活支援活動の実施対象世帯数は、下半期（10月～3月）における実績。

4. 広報など

広報紙等	広報紙の名称	黒松地区社協だより	発行頻度	年1回
	発行部数・配布方法等	500部回覧		
	その他の広報	・行事チラシ等の配付		

5. その他の活動

活動・取り組みの概要	・黒松地域福祉交流会 ・社協理事と民生委員との懇談会 ・黒松夏まつり ・地域福祉の活動の参考となる学習会の開催（認知症サポーター養成講座など） ・サロン活動者交流会
------------	--

6. 地区社協活動の特徴

高齢化が進む団地でもあり、町内会の協力を得て見守りや声がけなどの安否確認活動やサロン等を開催し、高齢者が安心して暮らせるまちづくりを進めている。加えて、地域福祉活動を更に推進するため、市民センターや小学校、民生委員、老人クラブ等地域の関係団体との懇談会も行っている。 また、震災後は、住民のニーズに対応し、避難所となっていた集会所を活用して新たに自由に参加できるサロンを定期的に開催するなど、住民同士の繋がりづくりやコミュニケーションの促進を図っている。
